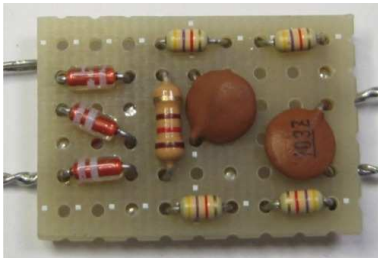
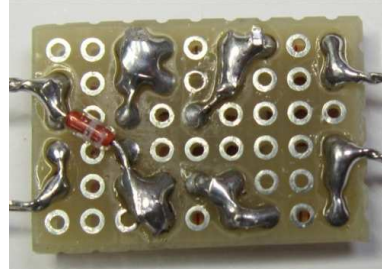


デジタルRF電流計バージョン2-A 製作例

検出部 蛇の目基板 部品配置例

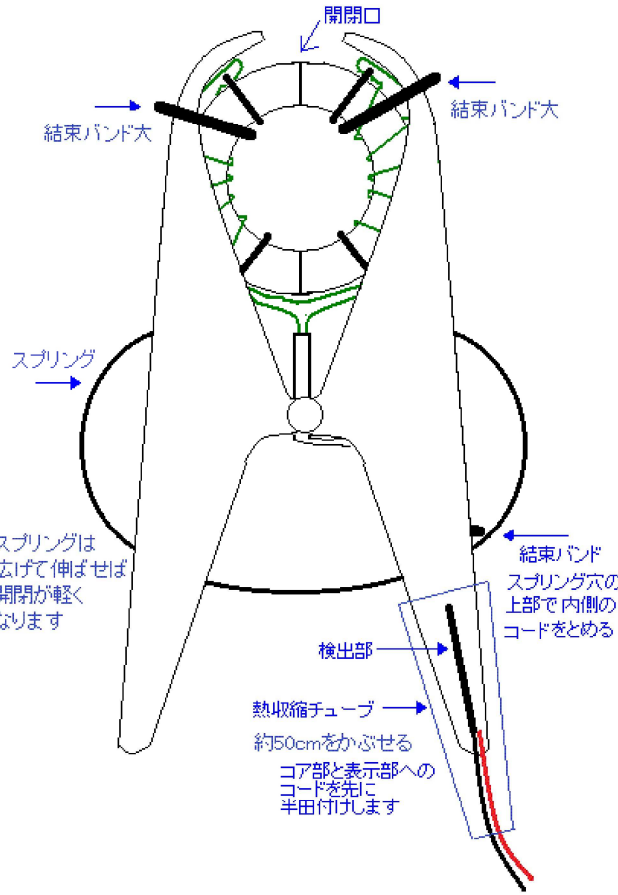
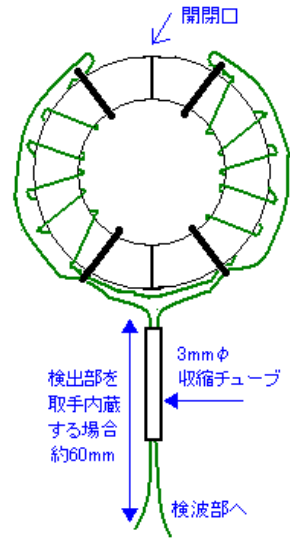


基板半面に ダイオード1本配置



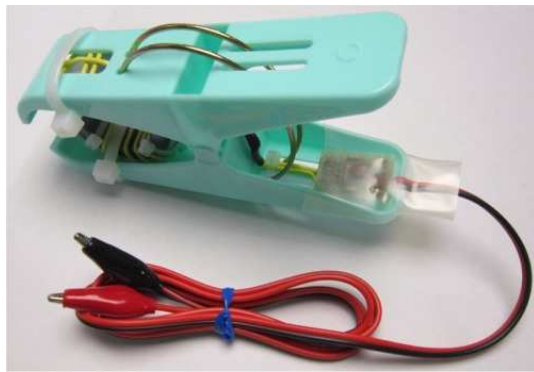
測定周波数範囲：1.8~54 MHz
測定電流範囲：10 mA~300mA
測定誤差：±2.0%程

検波部基板を 取手に内蔵配置した 製作例

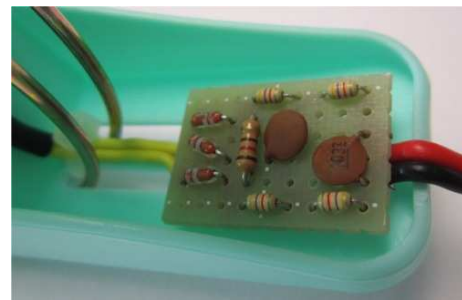


- ①右側のクランプコアの巻き方例の通りナイロンクランプコアに10回巻きして電流トランスを作ります 検出部へのコードに、右図のように3mmφの収縮チューブを通します
- ②特大洗濯バサミに右図のようにはさんで、開閉口に近い方で結束バンド大で固定します (検出部へのコードは内側のすき間から取手の方に通しておきます)
- ③蛇の目基板で作った検出部にコアからの線と、表示部への赤黒平行線を、それぞれ半田付けします コアからの線は、検波部製作例の写真のように、スプリングの間を通して検波部基板につなぎ、開閉がスムーズになるよう取めます、スプリング穴の上部でコードを固定します
- ④透明の熱収縮チューブを、赤黒平行線側から通して、取手の内側に収めた検波部基板ごと、かぶせます 強力ドライヤーなどの熱風で、収縮固定します
- ⑤赤黒平行線の先に、ミノムシクリップを半田付けします

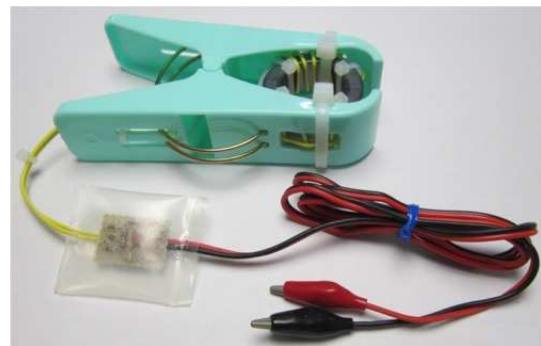
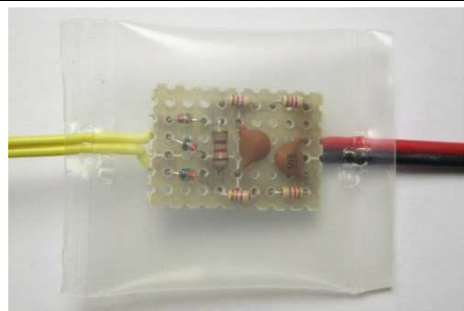
検波部製作例



検波部製作例拡大写真



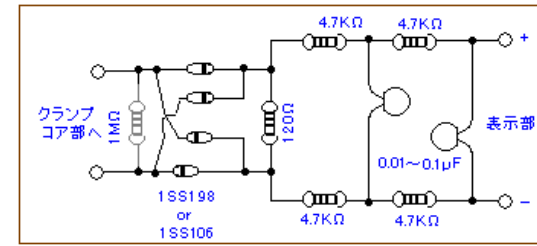
検波部基板を コード中間に配置した 製作例



テスターに接続した例



Ver2: 検波、平滑部 構成図



高周波電流=1/10 表示電圧 (電流:電圧比は1:10)
1MΩは、空中バラック配線で組む場合の、機械的補強用です
基板などに組む場合は、不要です



..... クランプコアの巻き方例

クランプコアにビニール被膜線を10回巻きします (ナイロンクランプの上に巻きます) 巻き方の例を紹介いたします 参考にすれば幸いです

ビニール皮膜線は、半分に折り曲げて、中間にしろしをしておきます

<p>①クランプコアに結束バンドを4本仮止めします</p>	<p>②ビニール皮膜線の中間を円のようにコアの下側に合わせ、結束バンドに通して、半分のコアに5回巻きます (コア内通過数)</p>	<p>③残り半分のコアにも5回巻きます 図のように、巻き方向は同じにします 合計10回巻きとなります (コア内通過数) なるべく等間隔に巻きます</p>
<p>④ビニール皮膜線の端は、巻き線の外側(上側)を折り返し、図の下側の結束バンドに通します 両端とも同じようにします</p>	<p>⑤完成例-1</p>	<p>⑥完成例-2</p>

電流トランスの製作例
ナイロンクランプの上から10回巻、開閉口のナイロンの突起部分はカットしました

